

「校長室の窓から」<https://dmzcms.hyogo-c.ed.jp/nishiwakikita-hs/>

令和8年(2026)10月1日(木)

第29号 発行: 隈元 優一

☎0795-22-5850/FAX: 0795-22-7359

「今年も残り100日… 本との出会いが未来を変える! ?」

後期始業式では、「オススメの攻略本」と題して話をしました。学び、考え、行動し、自らの未来を切り拓くためのヒントとなる本として紹介したものです。

また、夏季休業前の集会では、「挑戦すること」と「仲間も自分も大切にすること」の大切さにつ



いて話しました。私は、人は経験によって成長すると考えています。挑戦には成功も失敗もありますが、そのどちらからでも大切な学びを得ることができます。また、仲間と協力する経験や人の役に立つ経験も、自分自身を大きく成長させてくれます。

後期には体育大会や修学旅行をはじめ、地域活動やアルバイトなど、多くの経験の機会があります。ぜひ積極的に挑戦してほしいと思います。

私自身、決して読書が得意な方ではありません。しかし、学校経営や教育について学んだり、講話や文章を書くための知識を得たりするために、本を読む機会があります。そして本を読むたびに、新しい考え方や気づきに出会い、自分自身の成長につながっていると感じています。



今回紹介した5冊は、成長のステップに沿って選びました。『やる気に頼らずぐやる人になる37のコツ』(大平信孝著)は「行動する力」を、『すごい習慣大百科』(堀田秀吾著)



は、科学的な根拠に基づいた「習慣の大切さ」を教えてください。『時間最短化、成果最大化の法則』(木下勝寿著)では「効率的な学び方」を学ぶことができ、『世界の「頭のいい人」がやっていることを1冊にまとめてみた』(中野信子著)は「考える力」を養います。そして、『科学がつきとめた「運のいい人」』(中野信子著)は、人生を切り拓くための「考え方」や「行動の重要性」を教えてください。

これらの本に共通するのは、「まず動く、続ける、正しく学ぶ、深く考える、そして未来を創る」という成長の流れです。未来は突然変わるものではなく、日々の小さな行動の積み重ねによってつくられていきます。



気がつけば、今年も残り100日を切りました。100日あれば新しいことに挑戦し、新しい習慣を身に付けるには十分な時間です。

そして、15日後には体育大会があります。体育大会は結果だけを競う行事ではありません。仲間



と協力し、一人一人が役割を果たすことに大きな意味があります。この15日間を、仲間との絆を深め、自分自身を成長させる時間にしてほしいと思います。

まずは一冊、1ページでも興味をもった本を手にとってみてください。一冊の本との出会いが、皆さんの可能性を広げてくれるかもしれません。後期の終わりに、「挑戦してよかった」「仲間と頑張った」「この100日で成長できた」と実感できる毎日を過ごしてほしいと思います。まずは15日後の体育大会に向けて、一日一日を大切に積み重ねていきましょう。